



# みどりの風

平成25年9月2日発行  
校報 第500号  
〔みどりの風 第43号〕  
練馬区立関町北小学校

## 恩 送 り

校長 大野 泰弘

私たちがよく聞く言葉に「恩返し」がありますが、皆さんは、「恩送り」という言葉をお使いになったことはあるでしょうか。「情けは人の為ならず」に似た意味の言葉ですが、話によると、江戸時代には我が国では日常的に行われていたとのことでした。

先月、ある研究会で、沖縄県宮古島の先生が、都内はもとより全国各地から参加した先生方を子どもに見立てて、「伝統的な言語文化を受け継いでいく」というテーマのもとで、模擬授業を行いました。石川啄木のふるさとを懐かしむ短歌や遣唐使となったわが子を送り出す母の思いを綴った詠み人知らずの和歌などを学んだ後のまとめの場面で、この「恩送り」という言葉が出てきました。

そのときに宮古島の美しい映像と共に示された言葉は次のようなものでした。〔作成者には使用許諾済み〕

「先人の思いを受け継ごう」 - 伝統的な言語文化への想い -  
「恩送り」という言葉があります。  
誰かから受けた恩を、直接本人に返すのではなく、  
次の「誰か」へと渡していくということです。  
直接、本人に返せるときは、そうすべきですが、  
受け継がれた伝統や文化など、  
今の自分に注がれている すべての恩恵を考えると、  
すべてを返すことはできません。  
日本人の「心のふるさと」、「伝統文化」、「先人の言葉」、「先人の心」。  
次の世代につなぐことは、大切な「恩送り」であり、  
何よりの「先人たちへの恩返し」。  
その学びを通して、  
「美しい日本語」、「豊かな心」、「豊かな人生」を…

恩は「返す」だけでなく「送る」ものでもあるという考え方。今でも、沖縄県の人々の日常的な生活の中に生き続けているのでしょう。日ごろ受けている「恩」を直接返せないならば、他の人に送っていく、そうすることにより社会生活の中に「恩の連鎖」が生じれば、さらに住みよい、落ち着いた社会が築かれていくと思われます。

今年の夏は例年以上に暑い夏で、沖縄県以上の暑さになったところが多くありました。7月19日、夏休みに入る前に子どもたちにも話しましたが、8月6日、9日、15日には生命の重さや平和の尊さを、そして、東日本大震災から2年5か月目にあたる8月11日、昨日の9月1日には自然との向き合い方、防災の大切さをあらためて考えるべき日であると思っています。私は、この夏、「恩送り」という一つの言葉を通して、「伝統的な言語文化」だけでなく、先人の思いや願いをしっかりと受け止め、受け継ぎ、次世代に引き継いでいくことの意味をあらためて考えることができました。

子どもたちの人生の師である皆さんは、将来を生き抜いていかなければならない子どもたちに何を語り、何を残していこうとお考えになりましたでしょうか。

子どもたちはひと夏で心も体も大きく成長したことでしょう。9月に入り、各学年では、学習の成果だけでなく、よりよい人間関係を築いていく、という秋の収穫の時期に入ります。日々の授業や様々な活動を通して、子どもたちが日ごろより受けている恩を「次の誰かに送っていく」、そんな豊かな関係を築いていくことのできる、楽しく充実した学校生活を創り上げていきたいと思えます。